

平成29年度 庄内南部定住自立圏共生ビジョン懇談会（会議概要）

- 日 時 平成30年2月15日 午後2時から
- 会 場 鶴岡市総合保健福祉センター3階 大会議室
- 次 第 (1) 庄内南部定住自立圏共生ビジョンの改定について
(2) 庄内南部定住自立圏共生ビジョン（第2次）の策定について
(3) その他
- 1. 開会 : 進行 政策企画課 永壽課長
- 2. あいさつ : 企画部長 高坂信司
- 3. 協議 : 座長：伊藤会長、 資料説明：政策企画課主査 五十嵐

以下、質問の概要

医療

- 委員： 庄内看護専門学校の整備検討内容について説明いただきたい。
- ワーキング部会（庄内病院総務課長）
市中心部に国の合同庁舎を着工する動きが出ており、看護専門学校の今後のあり方について、将来どのような学校を目指すのか、看護職員の需要予測などを見定めながら、移転改築を考え、検討していきたい。

福祉

- 委員： 病児・病後児保育の定員について
- ワーキング部会（子育て推進課長）
鶴岡市の三井病院にある「カトレアキッズルーム」が定員2名、三川町の「にこっと」が定員7名、庄内町の「ほっと」が定員6名となっている。

教育

- 委員：教育分野に「女性センターの広域利用」はあるが、できたばかりの鶴岡市文化会館を活用する取組など、今後、社会教育活動や文化活動をさらに広めていく取組がビジョンに盛り込まれていないのはなぜか。
- ワーキング部会（社会教育課長）
女性センターの取組のみ掲載されている点については、当施設がこの圏域に一つしかなく、活用について当時ご意見があったため、これに特化した。社会教育活動については、県庄内教育事務所が庄内全体を管轄し、所管の協議会の中で研修会や情報交換等を行い連携している。その中で、鶴岡市の各施設が実施する子育てや生涯学習の講演会などについては、鶴岡市民に限った形ではなく、他市町から参加している方も多い。また、文化的な活動については、芸術文化、伝統文化など様々な分野があり各地域の芸術文化協会などが主に活動している。

以下、意見の概要

医療

○委員

医師や看護師の確保について、この圏域構想を活かし、看護学校の広域的な運営や、特に資金面などで庄内町や三川町から協力を募ることを考えてはどうか。

福祉

○委員

病児・病後児保育の定員が全体的に見てまだ少ないと感じている。特に鶴岡市は人口の割に定員が少ない。子どもはよく風邪を引くが、こうなると保育所で預かってもらえない。共働きの保護者が保育所の預りを断られた時の気持ちはどうだったか。鶴岡市には定員を増やすなど更なる充実を図ってほしい。

教育

○委員

社会教育活動、芸術文化活動あるいはスポーツ活動など、もっと子供たちが輝いて活躍できる場を提供していかないと地域が元気になっていかない。就学前の子育て部分だけではない、就学してからの小中高校生が地元で活躍できる場、遊びではない部分で楽しめる場、一緒に育っていけるような場をもっと設けてほしい。

産業振興

○委員

商工業の実態として管内の人口減少の幅よりも商工業者数の減少幅の方が大きい。これを解消するためには事業所を確保すること、各事業所の収益力、経営力を強化することが重要となっている。具体的には、国の小規模事業所の施策として小規模事業所持続化補助金があり、県はこの補助金が非採択された事業者に対して 29 年度からサポート補助金を交付した。それでもまだ非採択の事業者があるので村山市は小規模事業者の条例を設け、県補助金で非採択とされた事業者に対しバックアップしている。小規模事業者振興を条例に定めることをこの圏域の各自治体に提案したい。

○委員

鶴岡市の高校卒業見込者が 1500 名で、このうち地元に残る者が 500 名、就職進学者で 1000 名が県外に流出するという地元紙の記事を見た。数年前に担当の方に聞いたところ、高校生の県外就職先の希望が大手製造業ということだった。地元にも大手の製造業があるが、名のある会社に就職するため、県外に出て寮やアパートに住み、そこでコンビニの弁当やカップ麺を食べて仕事に行っても元気に働けるわけがない。何か地元を引き止めるものとして、魅力ある企業の創出のほか、新入社員の確保ができず廃業せざるを得ない企業を減らすことも考えてほしい。高校卒業後、就職や進学で圏域から出ていく高校生を引き止めるための方策を進めていただきたい。

地域公共交通

○委員

庄内町が鶴岡清川線のバス路線運営に対し補助金などを出しているが、このほかの路線を含め、大型バスに一人か二人しか乗っていないと効率の面はどうなのか。庄内町の町営バスの鶴岡への乗入れ、またはデマンドタクシーの鶴岡市への乗入れなどを鶴岡市からも助成をもらう形で検討するなど、公共交通の充実を図ってもらいたい。

○委員

市街地以外の周辺部では「限界集落」がまだ残っていて地域間格差は更に大きくなっている。この地域では高齢者の交通事故が一番の問題であり、高齢者は運転免許を返納したいが、毎日の買物や医者通いなどで返納できない。公共交通が半日に一本といった状況を何とかできないか。周辺部では、孫育て、親の介護などは主に家の女性が背負っており自分の職場でも退職する女性が多い。こうした地域間格差の解消を期待する。

全般

○事務局（政策企画課長）

委員各位からは、今後の庄内南部地域における取組を進めていくうえで、非常に大きな課題をいただいた。圏域の1市2町が今後一緒にどうことができるのか探っていきたい。その中で定住自立圏の枠組で取り組んでいけるものがあれば当然に取組をしていきながら、また、この定住自立圏以外でも、同じ生活圏として、意思疎通をしながら、地域の方々と住民福祉の向上につながるような取組を行っていかなければならない。我々としても、頂戴したご意見を、圏域の1市2町で密に連絡、情報交換しながら可能なところから取り組んでまいりたい。